

# ☆☆☆☆☆ わたしの実践報告

## ①はじめに

3年生は、3クラス97名、素直で、仲がよくまとまつた学年である。

この子供たちは、1・2年生の運動会ではかわいい、ふりつけのダンスを踊っていて、民舞は見るものも踊るのも、はじめてである。

## ②この子らに「はね娘」を

「はね娘」を知った時から、ぜひこの子供たちに踊らせたいと思っていた。大人がやって、みんなで楽しいのだから、子供たちにとって、うきうき体を動かしたくなる。楽しいはずだと思ったのである。

- ・軽快セリズムにて元気よく、はねる感じを表現してほしい。
- ・友だちと踊る、みんなと踊る楽しさを味わってほしい。

こんなことを目標に、まずは、子供たちに見せようと、教師の踊りの練習が始まった。

## ③練習を始める

運動会の練習時間は、他の競技も含めて、全学年、体育館9時間、運動場9時間の計18時間である。

体育館での練習は、全て「はね娘」に使った。

### ・ステップを覚える

1.2番	(a)2さし	(b)左左ケン右左左	(c)3ケン
(a)3 ''	(b) "	(c)3 "	
(a)3 ''	(b) "	(c)3 "	
(a)3 ''	(b) "	(c)4 "	

# 『はね娘』

3番				
4番	(a)3さし	(b)	"	(c)3ケン
	くり返し			
	ポーズ			

初めは全て、3さし、3ケンのステップで練習した。

(a)「1と2と3(ソリ)」(b)は「右左左右 左右左右」、(c)は「パーしてヤケしてケン、ケン、ケン(ソレ!)」という言葉がけで、ゆっくり指導した。

### ・子供たちの様子

(a)と(c)は比較的スムーズにできたが、問題は(b)である。

8回間を続けてやるなんて、めうとうもないことである。そこで「右左ケン右」の4回間と、「左右ケン左」の4回間にわけて練習した。それでも、つなぎの右足と左足とが、ごちゃごちゃになるので、「右左右そろえて」と一度、両足をそろえて、次の左足に入ることにした。一緒に、かけ声をかけ、グループで練習し、なんとカリズムに乗ってきたが、子供たちは、ここが一番むずかしいところだった。

### ・扇づくり

9月の参観日に、お母さんにお願いして、子供たちと一緒に扇を作ってもらった。画用紙を折り、切り、開き一本一本のリづけをする。お母さんにちも汗なくて、真剣そのもの。でも45分で扇一つがやっと。おとの一つは扇題ということにした。

# 『はね娘』を実践して（運動会）

### ・扇を持って

自分たちで作った扇を持って踊るのが、うれしくて、うれしくて、踊りにも一段と力が入ってきた。とは、いっても、手と足のステップと、あわせると、またまた大変であった。ここでも、ゆっくり時間を作れた。できたらこれから白い扇に、赤、青、黄のスプレーで色をつけてあげると、また、はりきって踊りはじめた。

### ・ステップは、かってに見えるものではない。

いよいよテープに合わせてみようという時になって2さしや3さし、3ケンや4ケンが混ざると、よつてに、ややこしくなるのではないかと考えた。

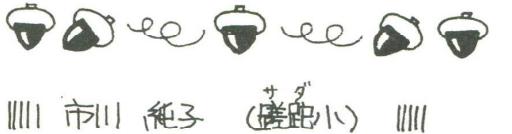
1回目	2さし	3ケン	=	3さし	3ケン
2回目	3さし	3ケン		3さし	3 ''
3回目	3さし	3ケン		3さし	3ケン
4回目	3さし	4ケン		3さし	3ケン

(本当は1回ずれる)

数の上では同じではないかということになり、1回目から4回目まで3さし3ケンで通じて踊ってみることにした。子供たちは、どんどん踊りつづけたが、テープの音楽のリズムとは、どんどんかけ離れていた。

なぜずれるのかと考え、2・3回振り返し練習した。あまり踊りと音楽とが合わないので、2さし4ケンのあることを教えると、「先生、この方が踊りやすいわ」……。

伝統的に伝え守られて来たステップには、



市川純子(講師)

それだけのうねが、あ、たようだ。

## ④発表の日

運動会には、赤・青・黄 3クラスが、それぞれの色の扇を持ち、背中に八咫帯を結んだ。子供たちは、大きな、かけ声とともにリズムにのり、全身で満一杯の表現をしていた。

そして合…子供たちは本当に「はね娘」が好きだ。となりの空き教室を民舞教室として4年生になった今も、好きな時にテープを流し、扇を持って踊っている。

## ⑤「はね娘」を踊って感想文

この一年生の時はねくのは、大きいに内向してしまったけれど、おどりは、たんぱくなっただけで、たけがは、だんじるときました。二年生は、おどりをしなくとも、おどりをしてきました。一年生の時や二年生の時はねくのは、おどりは、たんぱくなっただけで、たけがは、だんじるときました。

